

人工透析装置用洗浄剤補充システムの改善に向けた取り組み

医療法人社団前田記念会 石神井公園じんクリニック
宮尾眞輝（ミヤオマサキ）、志賀雄一、篠崎瞬、雨宮諒、
千葉まどか、片田瑠生、金澤怜来、前田国見

【目的】

ここ数年で人工透析装置用洗浄剤の誤混入事故が相次いで報告されていることから、当院における補充システムの改善に向けた取り組みを行ったので報告する。

【方法】

従来では洗浄剤タンクの残量に応じて、適宜製品バッグに取り付けたコックを開けて直接注ぎ込む方式を取っていたが、2023年8月よりコックの開け閉めだけで洗浄剤タンクに補充するシステムに変更した。

【結果および考察】

- ・ 従来では補充のたびに誤混入するリスクと隣り合わせであったが、システム変更後では新たな製品バッグへコックを接続する際に取り違えなければ、誤混入するリスクを回避できるため、発生確率を著減させることにつながる。
また、当院で使用しているアルカリ系・酸系洗浄剤それぞれのコックは誤接続できない仕様であることから、誤接続のリスクも回避でき、より安全な補充システムが構築できたと考えられた。
- ・ 洗浄剤を補充する際には、20 kg近い製品を投入口の高さ以上に持ち上げる必要があり、重労働と感じていたことから、業務改善を目的として本システムの検討を開始したが、結果的には誤混入対策にもつなげることができた。

【結語】

システム変更により業務改善に寄与した。